

学友会東京支部だより

南高

発行 和歌山県立南部高等学校
学友会東京支部
事務局 〒363-0022
埼玉県桶川市若宮1丁目
8番12-204

やっ
て
く
れ
ま
し
た
!

南高軟式野球部

第69回 長崎国体で全国制覇!

初出場で頂点へ! 和歌山県初の快挙



昨年10月31日、長崎国体優勝祝賀会が南部ロイヤルホテルで催された。東京学友会代表として取材を兼ね、祝賀会に出席。列席者150余名の拍手の中を優勝旗・賞状を持って選手、関係者が入場。森校長、原田学友会会長、来賓の方々の祝辞の後、池田哲也監督のチーム結成時から、練習試合・地方大会・近畿大会・夏の第59回全国大会出場・長崎国体優勝までの道のりの話を聞かせてもらった。

10月12日、五島市に到着予定だったが台風による悪天候でフェリーが欠航、予定にはなかった長崎市での2泊となり、現地に入れたのは1回戦、能代高校(秋田)との試合の当日、14日だった。能代を2:1で破り、15日、夏の大会で敗れた福岡大大濠(福岡)を4:0でリベンジ。16日、崇徳(広島)を10回、タイブレークの末、5:3で撃破。同日の決勝では神港学園にリードされることなく3:1で破り見事優勝!

ハードな日程の遠征や合宿を繰り返してきた経験が今回の全国制覇につながったという話、遠征費を稼ぐため選手が夏休みにアルバイトをした話、4人の3年生を送り出す監督の温かい熱い想いの『送る言葉』は聞き応えがあり、感動を覚えた。

今回の国体出場校の大半は硬式野球で全国に名を轟かせている強豪・古豪の名門校ぞろい。初出場の南高はスゴイことをやってのけた。校史に残る大快挙!

今年は紀の国和歌山国体(9月26日~10月6日)、もうひと暴れしてもらいたい。ガンバレ~!

(木村允彦)



やってくれました！

長崎がんばらんば国体優勝観戦記

昭和 62 年卒 舟越 公康 (みなべ町 在住)

我が南部高校軟式野球部が第 59 回国民体育大会「長崎がんばらんば国体高校野球軟式の部」で見事初出場にして初優勝の偉業を成し遂げました。国体団体競技での優勝は「和歌山県勢初」の快挙だそうです。

私の息子(3 年生)が軟式野球部にお世話になっている関係で、今回夫婦で長崎国体を観戦して参りました。

10 月 12 日伊丹空港から出発。近年では最強クラスの台風 19 号に向って、競技の中止もあり得る中、当初は父兄 9 名で応援に行く予定でしたが、私ども夫婦以外は前日にやむなくキャンセル。

とりあえず飛行機で長崎空港までは行くことができたが、空港でフェリーの運航状況を確認するも、案の定、長崎港から高校軟式野球会場がある福江島行きのフェリー関係は欠航。福江島のホテルはキャンセル。とりあえず長崎駅方面へバスで移動し、急ぎょ宿探し。国体期間中は空きがないと言われていたが、一か八かで入ったビジネスホテルが確保できた。

子供達は 11 日の夕方にみなべを出発し、飛行機・フェリーを使い 12 日午前中には福江島に到着予定だったが、フェリー欠航のため私達と同じく長崎市内で足止めされる。



結局 12 日の夜から 13 日の朝にかけて台風が上陸し、13 日も島へ渡れず。日程も変更になり、13 日は中止、14 日からの 3 日間での開催となった。3 日間になったことにより、準決勝・決勝が同日に行われる。



14 日には無事に福江島に渡ることができ、いよいよ試合会場へ。

そこでまず目に入ったのが、各出場高校のお揃いの T シャツを着た父兄が結構ウロウロ、こっちは夫婦 2 人での応援と腹をくくりスタンドへ。

試合が始まる前に『必勝南部高等学校軟式野球部』の横断幕を掲げ、試合前のノックを見ていたところ、双方のスタンドへ大勢の中学生が応援に来てくれました。ある中学校の校長先生からお話を伺ったところ、「島を挙げて国体を盛り上げたい」と、地元住民の方々の応援をはじめ、島中の幼稚園・小学校・中学校・高校が応援の練習を積み重ねてくれたらしい。おかげで、応援団のない身内だけの寂しい大会と思っていたのが一転、大応援団の中での試合に選手達もハツラツとプレーしていました。

10 月 14 日一回戦 能代、練習不足で挑んだにもかかわらず、いきなりのエンジン全開で初回到 2 点先制、バックの守備もファインプレーの連発で勝利した。

10 月 15 日 二回戦 福岡大大濠、ここには 8 月に行われた全国大会の 2 回戦で逆転負けをしていた。いざ始まってみると、先制・中押し・ダメ押しと効率よく得点し、守ってもエースの力投、フェンスを怖がらない果敢な守備があったりするなど相手を寄せ付けず快勝。

10 月 16 日 準決勝 崇徳戦、今大会注目のチームとの対戦でしたが、初回先頭バッターの主将樫本がいきなりの 3 塁打を放ち幸先よく先制、5 回に同点に追いつかれたが、6 回に 2 点を奪い再度突き放した。しかし 8 回・9 回と得点されて同点となり、今大会特別ルール of 延長タイブレーク(1 アウト満塁から始める。打順はチームで任意に選択)に入る。

先行の南部の攻撃、2 番東光がセカンドへ高いバウンドの打球の間に、3 塁ランナーがホームイ

ン。続く2アウト2・3塁から3番舟越が三遊間を破るレフト前ヒットで1点追加。2点を勝ち越し崇徳の攻撃へ。

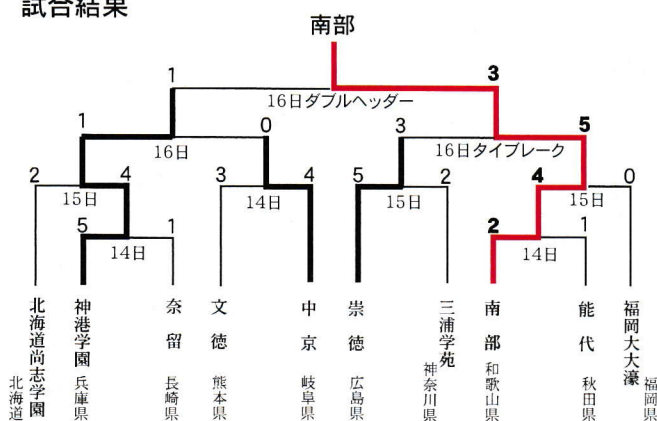
相手は打順1番からを選択し攻撃に入った。まず先頭バッターをセカンドゴロに打ち取り、続く打者を3塁ゴロでゲームセット。

準決勝終了40分後の決勝戦は神港学園。

この試合も3回に先制し、6・7回にも追加点を入れ、8回に1点は失ったものの全員野球で頂点に立った。

新チームには今年、地元和歌山開催ということで、是非とも2連覇出来るよう頑張ってもらいたいものです。今後とも南部高校軟式野球部の応援よろしくお願い致します。

試合結果



・国体制覇への軌跡

全国大会で悲願の1勝を19年ぶり2回目出場で

昨年は高校軟式野球が注目された年になりました。夏の高校野球全国大会の準決勝で、延長50回に及ぶ死闘を繰り広げた中京対崇徳の試合が、毎晩全国ネットのニュースで取り上げられ、視聴された方も大勢いらっしゃると思います。

その全国大会へ、我が南部高校軟式野球部が19年ぶり2回目の出場を果たし、ベスト8になったことを知る方は少なかったと思います。

実は、今回の国体優勝はもちろん喜ばしいことではありますが、この国体に出場する権利を取るには、まず和歌山県大会で優勝し、滋賀・京都・奈良の4県で争う近畿大会を勝ち抜かなければならない。そして全国大会で1勝(対仙台商戦)しなければ国体出場はありませんでした。

国体初出場で初優勝の裏には、全国大会での悲願の1勝があったことを忘れてはならない。

・全国大会への軌跡

和歌山県

大会 二回戦 対 耐久 7-0
決勝 対 新宮 2-1

近畿大会

一回戦 対 立命館(京都) 2-1
決勝 対 比叡山(滋賀) 1-0

全国大会

一回戦 対 仙台商(宮城) 1-0
二回戦 対 福岡大大濠 2-3

(福岡)

今回、国体を観戦して思ったことは、大勢のボランティアの方々がかかわっていたことです。一つの競技を開催するのに「これ程の人員を要するのか」と改めて感じました。

今年はいよいよ「紀の国 和歌山国体・大会」が開催されます。皆様もぜひご観戦にお越しください。



秋のウォーキング～都電に乗って

都電荒川線散策

昭和 42 年卒

杉野 雅子 (東京都練馬区 在住)



雨で何度も延期となっていた「都電荒川線に乗って名所・旧跡を訪ねる散策」がついに実現！

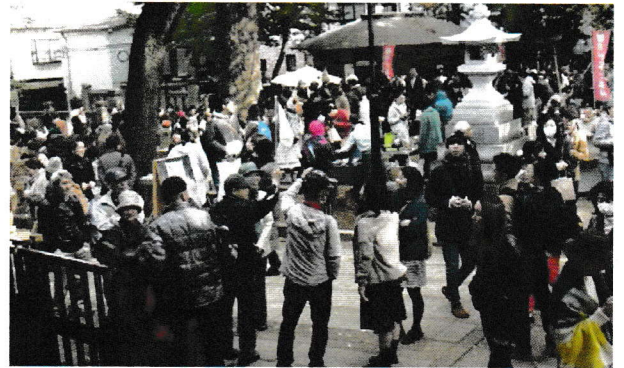
11月16日10時、高田馬場駅の改札を出たところで待つ「南高旗」のもとに集まったのは11名で“連れもて行こら”と、バスに乗り早稲田大学へ。まだ完全には色づいてない校内のイチョウ並木を通り過ぎるときに、南高生時代イチョウの葉や銀杏の掃除が大変だったのを思い出しながら、都電の始点「早稲田駅」まで歩きました。

一日乗車券（乗り降り自由で400円！）を手にワクワクしながら都電に乗り込み、最初の立ち寄り先

の「鬼子母神」に。電車を降りた途端、今日はなんだか変???以前、鬼子母神に来たときには参道も境内も静かで人っ子一人いなかったのに、今日は道端や境内まで沢山の出店で賑わい、人、人、人の波にビックリ！七五三のお参りに見とれたりしている中、「南高旗」を見て駆け寄ってきてくれた和太卒の女性2名がいて、つかの間の和歌山談義に花が咲きました。

鬼子母神を後に、電車を乗り継ぎ次の目的地「六義園」を目指しました。

JR 駒込駅から歩いて六義園に向かい、正門入口から入園してすぐに「六義園ゆかりの地 和歌山市」と書かれた立て看板とパンフレットで、またまた和歌山とのご縁を発見！



「南高旗」を見て駆け寄ってきてくれた和太卒の女性

ふるさとのたより

おにぎり条例

堅田十三生

みなべ町では、合併10周年を記念して住民に梅干し入りのおにぎりを推奨するおにぎり条例を可決して10月1日から施行されました。この条例は日本でも初めてで、面白い条例ということで全国紙やテレビのニュースでも取り上げられました。

正式には「町紀州南高梅使用のおにぎり及び梅干し普及に関する条例」で、通称「梅干しでおにぎり条例」もっと簡単に「おにぎり条例」といわれています。全国でも初めての条例であり、地産地消を推奨することで全国に発信して梅干しの消費の拡大を図り、梅製品の販売拡大を図ることを目的とするものです。

条例を作ることにより、町民全員に梅干しを愛してもらおうと共に、梅干しを食べて健康に過ごしてもらおうというものです。学校給食での活用も検討され、若い人にも食べてもらうことを考えています。



条例制定を機会に梅干し活用のアイディアも検討されて、B級グルメの検討、防災訓練での配布、米の産地とのコラボ、梅おにぎりの日の制定など色々なアイディアが出されています。

最近の梅干しの消費量は2012年に2万5100トンで1世帯当たり1053gであったものが2013年には750gと約30%も減ってきています。みなべ町の梅干しの生産量は全国の約30%で全国一位ですが、最近の梅干し離れに危機感をもっています。2013年の総務省の家計調査では梅干しの購入量は60代で950g、30代で419g、20代では274gと若い20代では60代の約30%しかありません。若者の梅干し離れが進んでいるのです。

みなべ町の若者に一番好きなおにぎりはと聞くとシャケ、ツナマヨ、昆布となるようです。これを聞くと“おにぎり条例”の必要性が分かるような気がします。

これを機会に地元みなべの南高梅の販売が伸びれば嬉しいものです。

六義園は、和歌の庭の趣味を基調に築園された江戸時代の代表的な大名庭園で、国の特別名勝に指定された貴重な文化財だそうです。

まずは持参したお弁当を消化して荷物を軽くし、庭内の景勝地（六義園八十八境）をゆっくり散策。11月中旬の気候とは思えないくらいの暖かな日差しに恵まれて、六義園八十八境に映し出された万葉の地——紀ノ川、藤代峠、仙禽橋、片男波、芦辺、新玉松——等々の紀州にゆかりのある同名の見どころを見て廻りました。六義園の花暦によると、1月のロウバイから始まり11月から12月にかけてのモミジの紅葉で終わりますが、私たちが訪れたときは暖かすぎて紅葉には少し早過ぎ。でもハゼノキは綺麗に色づいて・・・。

六義園で十分和歌山を満喫した後は、山手線で大塚から都電に乗り換え、本日の最終目的地の荒川車庫に向かいました。小さな子供連れが何組か訪れている可愛らしい鉄道公園で、みなべの“連れもて行こら”一行も子供時代に戻ったような気分で骨休みができ、まるで時間が止まったようにも感じるひとときでした。

ポカポカ陽気の日に、ゆっくり走る路面電車、都電、チンチン電車に揺られての楽しいウォーキングでし

た。最盛期の頃41の系統が都内を縦横に走っていた都電が次々と廃止され、現在唯一運行されている都電荒川線ですが、沿線に暮らす人たちに溶け込み、普段の足となる貴重なチンチン電車であるということを、乗車して実感いたしました。

30か所ある停留場には、面影橋、雑司ヶ谷、鬼子母神前、庚申塚、飛鳥山、熊野前等々の興味深い名前がつき、見どころが満載のようで、次回乗車するときの訪問先リストに入れておきました！



世界農業遺産

堅田十三生

みなべ町は田辺市と一緒に世界農業遺産への申請・登録に取り組んでいます。

世界農業遺産（GIAHS）とは——伝統的な農業・農法を核として、生物多様性・優れた景観等が一体となって保全活用される世界的に重要な農業システム——を、国連食糧農業機関（FAO）が認定するものです。

みなべ町では田辺市と一緒に「みなべ・田辺の梅システム」として昨年の7月に農林水産省に申請をしました。

全国で7地区の申請がありましたが、一次評価の専門家の現地調査をパス。10月20日に行われた専門家会議での二次評価にもパスして全国での3地区に選ばれ、国連食糧農業機関に認定申請することになりました。

国連食糧農業機関で認定されると、みなべの梅農業・南高梅の生産のシステムが世界農業遺産となり、世界に認められることになるのです。

◎みなべ田辺の梅システム◎（申請の骨子）

養分に乏しい礫質の斜面を利用し、梅林としての利用と周辺には薪炭林を残すことで水源涵養や崩落防止等の機能を持たせ、薪炭林に生息するニホンミツバチと梅との共存等、地域資源を有効活用して高品質な梅を持続的に生産する農業システムという内容で承認されました。

他の2件は岐阜県の“長良川中域の里川における人と鮎のつながり”と宮崎県の“高千穂郷・椎葉山の森林保全と伝統文化”です。みなべの梅生産が日本の有名な長良川の鮎や伝統文化の高千穂の山々と共に選ばれたのです。今年行われる国連食糧農業機関の承認審査に認められて、世界遺産としてのみなべの梅農業を実現してほしいものです。

2014年8月現在、農業世界遺産の認定を受けているのは世界13ヶ国、31サイトです。日本では5サイトで石川県の能登、新潟県のトキとの共存、静岡県のお茶、熊本県の阿蘇の草原、大分県のクヌギ林です。

古 希 雑 感

昭和 38 年卒 稲井 清子 (神奈川県茅ヶ崎市 在住)

2014 年 9 月 20 日 (土) 古希を記念して開かれる南部中学同期会に出席のため、大阪へ向った。東京にもあるのかもしれないが大阪で女性専用車輛に乗った。他の車輛より空いていた。

目の不自由らしき青年が乗ってきた。“ま、い
いか人間”の私は、目が不自由なんだし、“ま、
男性でもいいんじゃない”と思って安全に座れる
のかしらと気になっていた。すると、前に座って
いた女性が「ここは女性専用車輛ですよ。」と言
って隣の車輛に続くドアの所まで誘導してあげて
いた。“はっ”とした風の彼の顔は真っ赤になって
いた。

う～ん、やっぱりその方が親切だったのか？彼
自身は健常者と同じように行動したいと思ってい
たに違いない。指摘を受けて今度は気をつけよう
と学んだことだろう。

一時が万事こうなのだ。もう 70 年も生きてい
るのに、未だ確固たる規律が自分自身の中で確立
していない。自分が情けないと思ったりもするが、
最近では“これが私だ！”と開き直っている私でも
ある。

友人の夫である高校の先生が退職直前に「今
まで生徒の為のみを思って生活してきたので退
職後は自分の為だけに時間を使い、楽しんで生き
たい。」と言った。飲んだ勢いで本音が出たのか、
やっと解放される喜びに溢れていた。そして彼は
同郷の奥様と地元へ帰り悠々自適の生活をはじめ
た・・・・・・はずなのにいつの間にか点字ブロッ
クを習い、点字翻訳をしたいと張り切っている
し、歴史研究会に入り地域で活躍している。本当
にしたかったのはやはり人の役に立つことだった
のだ。

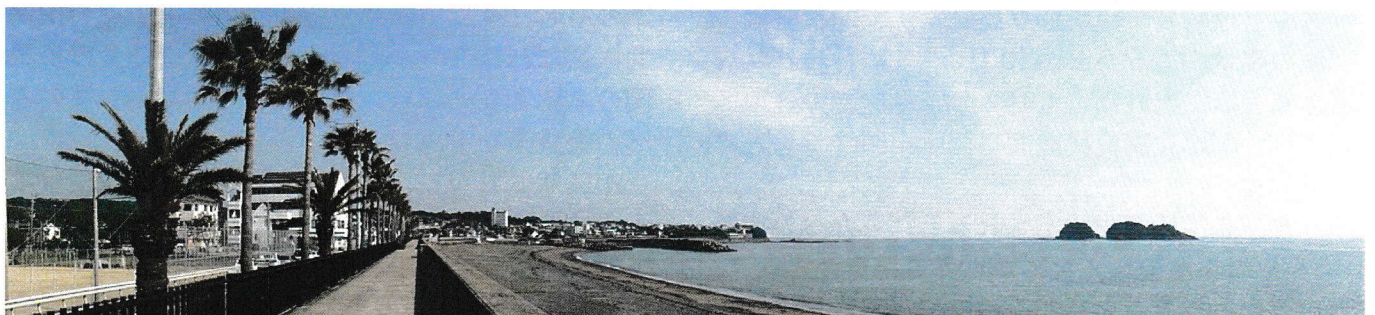
数年前、‘半世紀に一度のビッグイベント’と
称して、大学のクラブの同窓会が一泊二日奥志賀
であった。学生時代の合宿よろしく、盛り上がっ
た中で先輩男性が言った。「僕はやっぱり一生仕

事をしていたい。いくばくかのお金を頂く仕事は
ボランティアとは真剣味が違う。ボランティアは所
詮遊びだ！」遊びだ！と言われてしまえば又して
も“う～ん、そうか？！”とボランティア人間の私
には返す言葉もない。しかし金銭的見返りがなくて
も、お役に立って、喜んでくれる人がいたらそれで
結構。それが自分の喜びに繋がると自信を持って言
える 70 歳になっている。それに日本語ボランティ
アの時は 1 時間半の授業のための準備に、真剣に 3
時間くらいかけて臨んだものだ。

さてさて、大阪城北詰‘太閤園’での中学同期会
には男女それぞれ 8 名ずつ 16 名が集まった。150
人中だから約 1 割の参加である。その内 5 人は春に
‘みなベロイナル’での南部高校クラス会で会った
人達だったが、中学卒業以来という人も数名いた。
野球部 5 人の参加はスポーツを通した彼等の心の繋
がりの深さを感じて羨ましかった。高校受験に失敗
して翌年受け直した人、中卒で苦勞して苦勞して手
に職をつけ頑張った人、立派に会社を経営してる人、
朝 5 時起床で写経をしてる人、等々。歩んできた
70 年の道を語るには時間がとてもとても足りない。

沖縄から参加の男性はトマト農場で大成功！3 年
後か 5 年後、沖縄で会いましょうと次期同期会の場
所が決まった。‘コキ、コキと膝痛抱えて温泉へ’の
今の私は 5 年後自分の足で歩いて行けるかな？なん
て気弱にならないで筋トレ頑張って必ず行く～！沖
縄へ！！と固く心に誓ったのでありました。

40 にして惑い、50 にして天命が何かもわからず、
60 にしてテレビの画面に腹を立ててきた
私だが、孔子様のように“70 にして心の
欲する所に従って生きられたら良いね”と
思うのはおこがましいですか。それとも
杜甫様のように“昔から 70 歳まで生き
るのは稀だからせめて生きているうちに
お酒でも飲んで楽しみましょう”かね。
(飲めないくせに！) お・し・ま・い



3人の同窓会

昭和29年卒 嶋津 聿史 (静岡県三島市 在住)

幼少の頃から、ヨシミちゃん・アツちゃん・イツちゃんと呼び合った竹馬の友でもある。この3人だけの同窓会と云うのもあまり聞いた事がない。しかし昭和29年南部高校の卒業生で、現在東京近郊に住んでいる男性はこの3名と云うから驚きである。その上、三前君は高校2年時に東京へ転校したので卒業生名簿には載っていない。また私は10年前から体調を崩し、主治医から遠出は禁じられている。従って、南高学友会東京支部総会には残念ながら一度も出席出来ないでいる。そんな訳で、第6期の卒業生を代表して前田君一人に頑張ってもらっている、というのが実情である。

さて、今回の同窓会に至った経緯は、千葉に住む三前君が南部に行く用が出来たので、三島に途中下車し拙宅に立ち寄って下さるとの連絡があった。そこで私は早速、前田君に事情を説明し、三島まで御足労をお願いしたところ快諾して下さい、3人の同窓会が実現したのである。

思い起こせば、私共3人が揃って顔を合わせるのは、実に60年ぶりである。高校卒業時の年令から数えれば、来年は何と80歳を迎えることとなる。当日三島駅頭で会う前は、どんなに変わっているのだろうか、と期待と多少の不安もあったが、それは杞憂であった。当然のことながら、顔には皺がふえ頭には白いものが混じっていたが、昔の面影は残っていたので安堵した。相談の結果、先ず三嶋大社に参拝することにした。

大社は千古の老木も現存する神域であり、史跡・名木・名石等が点在し、とりわけ治承4年(1181年)源頼朝が旗挙げしたことでも広く知られている。また、当日は「子供の日」でもあり、拝殿に於いては結婚式が挙げられ境内は多くの人で賑わ



ていた。

大社を後にして2人を拙宅へお招きし、昼食後いよいよ同窓会(?)が始まった。当初はお互いに多少の緊張感もあって会話は東京弁(?)であったが、幼少時代の話になると、昔の南部弁(?)が多くなってきた。例えば、「〇〇先生にはヨオ怒られたネヤ」とか、菓子屋の「オイヤンやオバヤンはエエ人やったネヤ」等々である。話し合っている内に私は、ふと啄木の「ふるさとの訛なつかし停車場の人ごみの中にそを聴きにゆく」が脳裏に浮かんだ。

「訛は国の手形」などと云われた時代もあったが、現在ではテレビやラジオの影響もあってか、地方独特の方言はあまり使われなくなってきた。なんとなく一抹のさびしさを感じるのは私だけであろうか。

談笑もあっと云う間に帰る予定の時刻となり、三島駅までお送りして、この会も幕を閉じたのである。大変、楽しい同窓会であった。

＊日 時：平成26年5月5日(月)

＊場 所：静岡県三島市旭ヶ丘22-15

＊出席者：前田至美(ヨミ)、三前惇(アツシ)、嶋津聿史(イツ)

＊顛末記：上記3人は南部小・中・高の同級生である。



伝統の製法を守りながら
漬けた梅干が「くめ」なのです。



特選A級
紀州南高梅使用



紀州てまりのように丸くてやわらかい梅一粒を
大事に大切に心を込めてつみみました。

まりおとめ
毬乙梅



井上梅干食品株式会社

〒645-0012 和歌山県日高郡みなべ町山内1095-1

TEL. 0120-01-2730 FAX. 0120-04-2412

本社

0739-72-2730

千里売店

0739-72-5223

東京銀座店 03-6274-6033

ホームページ：http://www.kumaheinoume.co.jp/



子供の頃の遊び場

昭和 29 年卒 前田 至美 (千葉県八千代市 在住)

私もこの年齢になりますと、故郷「みなべ」での子供の頃の遊び場には不足しなかったことや、そこで毎日遊び呆けた頃を懐かしく思い出されますが、山、海、川、お宮、お寺、今考えると遊び場は無限に広がっていました。

正月が過ぎれば直ぐに初午。仲間達と千里の観音さまにお参りに行き、岩代の同年代の連中と遭えば集団での喧嘩となって石を投げあったりしたこともありました。

春先には、山内の新福寺の裏にある城山(シロ山)へ粘土細工の粘土を採りにゆき、ついでに近くの蜜柑畑の三宝柑やポンカンを失敬しては食べたりしました。ただ、今と違って悪童連のイタズラにも大人達は苦笑いしながら、おおらかな気持ちで見逃してくれていたのだと思います。当時の子供達にとって、ちょっとスリルのある楽しい思い出も、今となっては反省することしきりです。

夏休みになれば、午前中は南部川の鉄橋の下、日中は海、夕方にはまた海へと泳ぎに行きました。海では、運が悪いと通称「イラ」(クラゲの一種)に腕や足を刺され、応急手当と称してアンモニアの代用に小便を塗らしたことも愉快的思い出になっています。

秋口には、小鮒を餌にして南部川の河口でセイゴ(スズキの1~2歳魚)やギョウギョウ(ひいらぎ)釣りなどを楽しみ、冬が近づけば山には早生の蜜柑がたわわに実って、遊ぶにはこと欠かない少年時代の楽しい日々でした。

故郷を離れて58年目、今年5月で満80歳になりますが、そのうち一度、帰郷したいと考えています。

最近のふるさと「みなべ」も区画整理等で町筋も様変わりで、便利にはなったもののその代償としてはあの頃の川もすっかり汚れ、清水がこんこんと湧き出ていたあちこちの掘り抜き井戸も今ではすっかり姿を消して、本当に残念な限りです。

毎日、学校が終わると仲間達で空き地に集まり、〇〇ごっこや・秘密基地・三角ベースと、汗まみれ、泥まみれになって夕暮れまで遊び廻りました。その空き地は、現在のよく整備された公園とは違い、ガラスの破片や石ころだらけで、たびたび転んで擦りむいたりしても、不思議と大怪我になるようなことはありませんでした。

また当時は、道路でもボール投げや石蹴り、カン蹴り、ドッチボール等いろんな遊びが出来たが、車優先の時代となつては、そんな道路も空き地同様にすっかり無くなってしまいました。

現在、たまたま私の住まいの隣が子供たち用の小さな「仲良し公園」になっていることもあって、かれこれ10年近く草刈り奉仕をしています。いまこの公園で遊んでいる子供達が成人して家を離れても、折々の帰省時にこの公園を見て、ここで遊んだ日のことをほんの一瞬でも懐かしく思い出してくれればと思って、今後ともこの草刈り奉仕を生活の中での楽しみの一つにして続けてゆきたいと考えています。



ギョウギョウ



福つみ
梅をつつむ贅
『黄金漬』を細く切ったような道南産の真昆布で
つつんだ豊かで贅沢な梅干です。



元祖はちみつ梅
こがらぎ
選りすぐりの紀州南高梅とはちみつが
醸し出す、まろやかで上品な梅干です。

通信販売カタログ・商品のお問合せ、お求めは

フリーダイヤル **0120-197-832** FAX **0120-319-515**

受付時間 平日/午前8時~午後6時 土曜/午前8時~午後5時
 株式会社梅一番井口 〒645-0027 和歌山県日高郡みなべ町西本庄1224
<http://www.umel.com/>

※限定商品につき、販売していない時期もあります。

“畏友” 柳本を偲ぶ

昭和 28 年卒 浜田 好通 (千葉県我孫子市 在住)

いつも「ヤナ」と呼んでいたのもので、敬称は避けて姓を呼び捨てにさせてもらうが、柳本との交友は中学生のときから六十数年におよんでいた。一昨年あたりから私自身体調を崩して、親しく接する機会がなくなり、見舞いにも行かぬうちに逝ってしまった。

柳本とは中・高を通じてクラスメイトだったが、学校でも放課後でも、普段は行動を共にすることはなかった。柳本は、中学時代からずっと野球部のスーパーヒーローで、中学の県大会や高校野球の県予選で、主軸打者として抜群の活躍をしていた。私の方は、当時の野球ブームのなかで人並みに草野球に明け暮れていたが、9 番ライトというのが定位置になっていた。彼は私にとって、いわば別世界にいる雲のうへの存在だった。

しかし、優れたスポーツマンはみなそうかも知れないが、柳本は鋭い観察眼と判断力を持ち、剛毅な反面において人一倍、細やかな気配りをするとところもあった。私がクラス委員や生徒会の役員として、議事を進行しまとめるのに、戸惑ったりもたついたりしていると、いつもの的確な指摘をして方向を正し、助け舟を出してくれた。中学時代までは、人前で話すのが苦手だったのが、高校に進むころにはそれなりに自信を持てるようになったのも、彼のバックアップによるところが大きかった。

柳本の意外ともいえるほど、デリカシーをくみ取れる一面があったことも紹介しておきたい。

高校一年の文化祭のときのことで。クラスで菊池寛の『真似』という戯曲を選び、私がイタリアの聖地アッシジの聖職者の役を演じるようになった。リハーサルで私の演技を見ていた担任の先生は、勿体ぶって不自然だといわれたが、それを傍で見ていた柳本は即座に「いやそのままでもいい、いかにも著名な聖者らしい」といって、励ましてくれた。彼の思いやりに感謝すると同時に、演劇を理解するセンスと核心をつかむ直観力にも驚かされた。

こうしたことから、私にとって柳本はただの

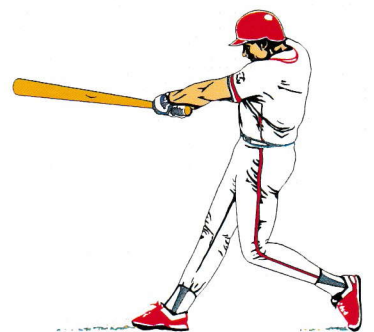
親友としては片づけられない、とても敵わない資質とパワーをもった特別な存在だった。そして彼からそのパワーをもらい、いろいろな場面での判断力と実行力を学ぶことができた。あえて“畏友”と呼ばせてもらう所以である。

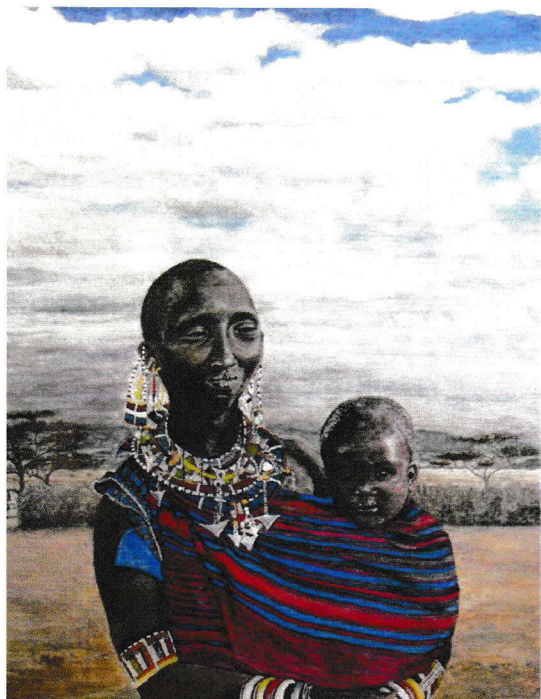
高校を卒業してからは、彼は日本生命に入らず、ノンプロ野球で大阪を舞台に活躍した。私は一浪して東京に出て進学し、年に一度の賀状のやりとりと数年に一回の同窓会で顔をあわせるだけになっていた。

したがってこれは伝聞なのだが、彼の野球を引退してからの営業マンとしての働きぶりがまた抜群で、部下の営業マンを手足のように駆使して、目覚ましい業績をあげたという。きりっとしたあの風貌で、抜群の決断力と実行力があり、人情の機微にも通じているのだから、とりわけ女性外交員たちは彼の的確な指示のもと、献身的に働いたことであろう。その伝聞を裏付けるごとく、やがてニッセイの新宿支社の最高幹部に栄転して、われわれ東京在住組と旧交を温めることになった。

南高学友会の東京支部が発足したのは、それから間もなくであった。支部長には柳本以外にいないと 28 年卒の仲間のあいだで即決し、副支部長、会計その他の役員もすんなりと決まった。その後の東京支部の運営はきわめて順調で、旧姓の中学校や女学校、農業学校から移籍して、われわれの上級生になった方々も、東京在住者の多くが参加された。その後の学友会が新しい役員にスムーズに引き継がれて、現在に至っていることは、会員諸兄弟もご存知のとおりである。

葬儀に出席できなかったのも、昨年 6 月半ば、南部中学時代の同級生 4 人で、志木の駅近くの自宅に弔問に出向いた。あの独特の豪快でいて繊細さ秘めた容貌の遺影が、夫人と令息に見守られて、ひっそりと納まっていた。

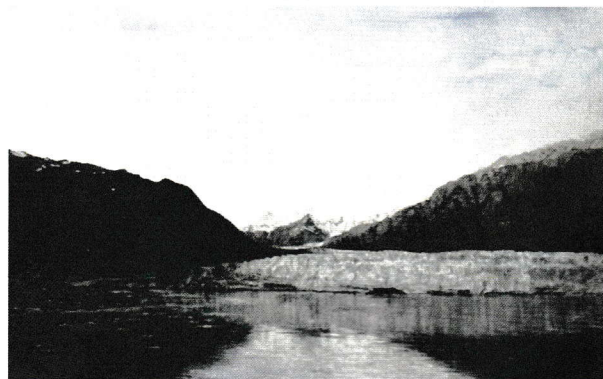




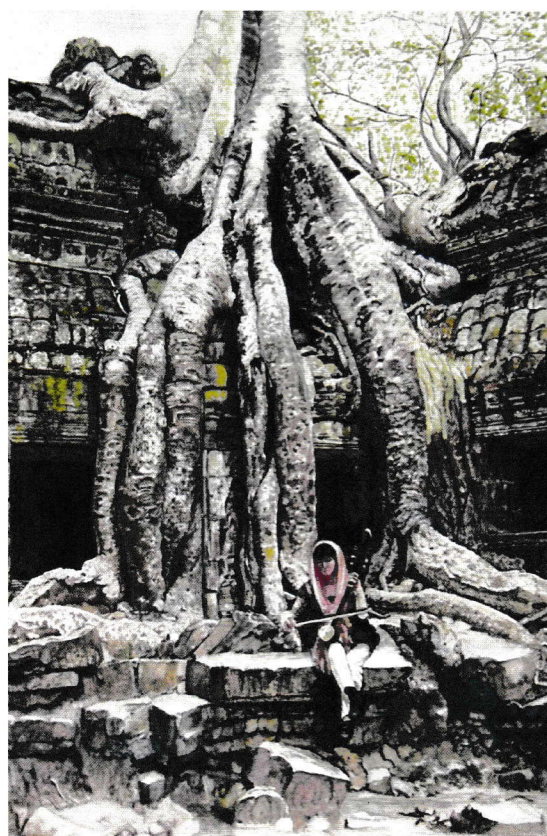
サバンナに生く



昼下がりのヴェネツィア



流離の氷河



悠久の時空に佇む

今回は池田素子さんにご出品いただきました。

池田素子（旧姓 山崎 / 東京都世田谷区 在住）さんは、「最初は皆素人」の言葉に惹きつけられ、20年前に、赤・青・黄の三原色と白と紺ですべての色を作る描き方を学ばれました。今も、「描くことは、我を忘れる楽しい時間」だそうです。

二字とも動詞からなる名字

ひまなぼんぺい

私ごとで恐縮だが、僕の妹の姓は出見という。彼女の夫は僕の小学時代からの友人で仲がよかったが、その名前について浅くも深くも考えたことなどなかった。

ところがある晩、甥（おい）と飲んでいるときに、彼がこんな話をした。

十年以上前に神戸でバーテンをしていた頃、イギリス人の常連がいて、あるときフランス人の友達を連れてきたのだそうだ。そのフランス人から名前を聞かれたので、

「デミって言って、漢字で書いてやったんよ。そっからがすごいの」

「名前の文字が二つとも動詞だ！ 初めて見た」と興奮して、大騒ぎしたという。

言われてみれば、確かに出見は出ると見るで、二つとも動詞だ。

名字をこんなふうに分解して、分析的に考えたことは、僕にはそれまで一度もなかった。

そのフランス人は、日本人の名字というものに、なぜそんな接近の仕方をしたのだろうか。妙に感心した僕は、甥と別れて彼の話を反芻（はんすう）しながら、思いついて帰りの電車の中で携帯に登録している名前を五十音順にたどってみた。

五百人を超える名前をしらみつぶしに見ていくが、二字とも動詞から成る名字はなかなか出てこない。

やっと出てきたのがカ行で「加来」という名前だった。これなら加えるに来るで合格だ。さらに地道な作業を続け、出見が出て、三つ目が「行成」

私が20代の中頃、東京は高円寺の「ひまなぼん」というお好み焼き屋さんと知りあった校正マンの中尾哲則さん。ペンネームは「ひまなぼんぺい」。彼は大阪に居を移し5年半が過ぎました。先日、ひまなぼんぺいというペンネームにピッタリ原稿が送られてきました。面白かったので紹介させていただきます。（木村允彦）

さん。行くに成るだ。

この三人しかいなかった。

その後、会う人ごとに、あるいは名簿などを見るたびに名字を分解して分析してみるが新しい発見はなかった。

あのフランス人が興奮したはずだと感心しつつも、このことは頭から薄れてしまっていた。

ある日、「全国名字ランキング」というサイトがあるのを知った。

そこで性懲りもなく再び挑戦してみたのだ。

佐藤、鈴木、高橋、田中、伊藤……と多い順に名字をたどったところ、一位から二千位までで二文字とも動詞の名字は次の四つしか見つからなかった。

三百十位が落合さんで、およそ七万四千七百八位が以下、四百六十二位の加納、千七十五位の伏見、千六百六十五位の知念と続くが、たったの四人である。

しかしこの四人の方が、はたして自分の名字が動詞だけで構成されている希少なものと自覚されているかどうか。携帯にあった行成さんに尋ねてみたが、珍しい名前だとは思っていたけど、そんなこと考えたこともないと言う。

読者の皆さんが集会などで落合恵子さんを見かけたら、ぜひとも尋ねてみてください。

ちなみに、加来さんは二千八十位、行成さんは九千五百五十五位で、なんと出見は二万二千二十五位で全国におよそ二百人しかいないという。

青い海に抱かれた

日本一の「南高梅」の里



〒645-0004 和歌山県日高郡みなべ町塩田1540
TEL **0739-72-3939** (代表)
<http://www.kishuji-minabe.jp/>

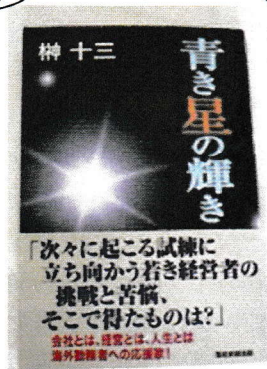
第7回学友会東京支部総会・懇親会 決まる

日 時：平成27年6月14日(土)11:30～14:30

場 所：水道橋グランドホテル

★お早めにカレンダーにマークをお願いします

本の紹介



『青き星の輝き』東京支部会員 堅田十三生さん 出版!!

海外で活躍する日本人が経験する悩みを、小説風に見事に浮き彫りにした本です。会社とは、経営とは、人生とは、海外勤務者への応援歌です。素晴らしい本です。ぜひ多くの方に読んでいただきたく思います。

発行所：産経新聞出版 1300円＋税

著者の略歴（ペンネーム：榊 十三）

1949年和歌山県みなべ町生まれ。和歌山工業高等専門学校を卒業後、松下電器産業に入社。工場、海外、CSを経験。ドイツ、アメリカでは現地責任者として勤務し、2009に同社を退社。現在、横浜市青葉区に在住。

＊ 回覧および購入希望者は事務局までご連絡ください。

事務局 から

●お詫びと訂正

前回の会報11号 ご寄付の欄で、三前さんのお名前を淳さんと間違えて掲載しました。正しくは「三前 惇」さんです。お詫びして訂正いたします。

ご寄付 ありがとうございます。

坂本 龍 ・ 大原 弘子 （＊敬称略）

上記の方々からご寄付をいただきました。
心よりお礼申し上げます。

会のために有効に運用させていただきます。

☆訃報☆

前東京支部長 柳本茂樹さんが、昨年6月に逝去されました。

平成15年の発足以来、支部のために多大なお力添えを頂きました。

心より感謝申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。 合掌

編集後記

今回の支部だよりについては、一番気がかりだった記事集めが予想以上にスムーズに進みました。軟式野球部の国体優勝祝賀会には、帰省中だった副支部長の木村さんが出席され、会場の模様を報告記事に、また舟越氏に全国制覇の観戦記をお願いすることができました。加えて諸先輩方からいろいろな記事の投稿がありました。

今回を教訓に、紙面が活性化し、新たな会員が一人でも増えること、また南高およびその関係の輪が更に広がることを願っています。今後とも皆さまからの活発な投稿、情報の提供をお願いします。
(事務局：山嵎)

編集スタッフ

山嵎春樹 TEL・Fax 0463-58-4295

木村允彦 TEL・Fax 0487-86-3514

稲井清子(旧姓/真造) TEL・Fax 0467-58-3492

齋藤文子(旧姓/阪本) TEL・Fax 045-383-8703